

第 50 回 (株) アニマックスブロードキャスト・ジャパン放送番組審議会議事録の報告
(令和 6 年 1 月開催)

放送法施行令第 8 条第 3 号イの規定に基づき、第 50 回放送番組に関する審議会が開催されました。その議事内容を下記にお知らせいたします。

開催年月日	2024 年 (令和 6 年) 1 月
開催場所	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 虎ノ門オフィス 2 階カンファレンスルーム + リモート
委員出席	7 名
出席委員の氏名	重村 一、内山 隆、樹林 ゆう子、高橋 望金子 ありさ 桶田 大介、森川 美穂 (リモート参加)
議題	審議作品「TV アニメーションシリーズ「事情を知らない転校生がグイグイくる。」第 1 話～第 2 話 (各 23 分) について 参考)『事情を知らない転校生がグイグイくる。』 本作は 2023 年 4 月から TOKYO MX 他の深夜アニメ枠とアニマックスで放送開始、アニマックスも製作委員会に参加しました。本作は、小中学生とその親を対象にしたマンガ原作で、子供のいじめをテーマに描く物語。
議事の概要	制作者による番組企画書では『原作の年齢幅が広い (親子・一桁から 70 歳代)』『子供のいじめは世界的テーマでヒット作が無い』とアニメ化にあたりターゲットや意義について記載ありますがそのように感じになりましたでしょうか。 本作品が国内・国外で話題を獲得するために必要なものは何だとお考えでしょうか。 本作及びテレビアニメの放送における「考査」についてお考えをお聞かせください。

本作品のご感想、表現やテーマ等でお気づきの点等

- この原作をアニメ制作しようとしたプロデューサーと放送局は勇気があると思った。
- 大体いじめ問題が語られるときの有識者、関係者の方は建前論を中心に言っているが、アニメの世界でリアルに表現していったら本当に建前論で事が済むのかを提言していくのも良いと思う。
- 元々X（旧ツイッター）で描き出した作品を引き取って出版した出版社も素晴らしい、それを作品化（アニメ化）したということはアニメ専門チャンネルのアニマックスにとって良かったと思う。
- いじめられている側（西村あかね）が簡単に受け入れている。高田太陽がいくら明るくふるまってもいじめられている方はもっと落ち込んでくる。
- 原作と脚色との間で、プロデューサーとしては原作でかけているところをもう一つ書き込もうということが必要だったのではないかな。

（考査についてのお考えについて）

- 人には枷があって、枷があるからドラマが生まれる。
そこを問題が起きると思い避けてしまうとことの本質ではないと思う。
- 民放はスポンサーがいるなどもあるが、ペイテレビはそういうところは思い切ってやってほしい。作っていく人間の「これをやりたい」という気迫が必要。
- 馬鹿なくらい能天気でいると、いじめという暗い環境を突破できるという明るい作品。
- 高田太陽のような人はリアルにはいないので、視聴者のリアルと作中の世界観がどう一致させるのが悩む。
- コミックスがヒットしている以上、ある程度受け入れられているということだと思うが、アニメ化でうまく反映されているのかわからないことが残念。
- 原作と映像化した時のギャップがどうだったか詳しい方がいたら教えてほしい。

（考査についてのお考えについて）

- 昔の作品と今の作品は基準が異なることというのを明確にする。
- 今の基準に合わせて過去作品を編集しなおすなどは余計に炎上する。
- すでに多くの作品で行われている冒頭に「当時の文化を尊重して～」などのテロップを入れて表現するしかない。
- 過去作品は、放送当時の基準をいかしながら放送することがポイント。
- いじめとは、実際は強烈。便所の水飲ませたりなどではなく、可愛いいじめ？方なのかなど。
- 高田太陽はなぜ彼女がなぜ嫌われているのかわからないということだった。
皆なぜいじめていたのかの疑問を持つ展開があると面白くなっていた。

- 長くいじめが続いていて西村あかねはこの状況をあきらめているということをもう少し表現すると良いかと思った。だからこそタイトルの『事情を知らない』だと思うので。
- 2話までは楽しませてもらったが、それ用に作られた設定のような部分が浮いてくるので2話以降の見ていくとどうなるのか。
- WEB系コミックスは最初のフックが大事で、その後が続かずどんどん部数が減っていくという特徴が出ており、(本作原作の)コミックスの後半はかなり部数落ちしている。

(考査についてのお考えについて)

- キー局と準キー局などとは暴力やエロの考査基準が異なる。
- ジェンダーや文化の盗用などいろんな問題を全く意識しないで、通り一遍にやると何かのきっかけで大きく燃え上がる。
- アニマックスの専門チャンネルとして「こういう考え方に基づいて、こういうふうに行っている」という基準、規約的なものを作るのはそんなに難しくない。
- 考え無しではなく、考えた上でやっているのだから、合わないのであればやめてください。ということができるのであれば良いかと思う。
- 作品は楽しませてもらった。

(話題を獲得するために必要なことについて)

- 楽しい表現、突っ込んだところの表現など遊び心もありOPが一番良かった。
- 原作通り丁寧に作りただけでは弱い。OPとは異なり本編は淡々と原作の漫画のコマを丁寧に演出していると思われるが、この作品を世界に出していくため、アニメーションとして魅力あるものにするためには、原作を損なわない範囲で何かを加える必要があった。
- 社会問題みたいなものは深く意識しすぎない方がよい。こういう題材の面白いものを作るということで良いのではないか。

(考査についてのお考えについて)

- 古いものを新しく作り直して放送という考え方もあると思うのですが、古いものは古いもので専門局こそ捨てずに放送してほしいと思う。
- 古いアニメ中心編成みたいなものを考えているのであれば、専門局であるからこそモノクロアワーみたいなものを作って『こういうところから日本のアニメを始まった』というところを示せるような場を作れると良い。
- 普通のリアリティのあるスーパーヒーロー、マーベルのような人が出てくるのではなく、ポジティブシンキングが人を救う、ということが新しい。
- セクシー田中さんの事件でいうと原作ものが怖くてできない。経歴がある人は原作物を回避して、新人や事情がある人がやっていくことになるが、それはお互いの世界にとって幸せなのか？
- 原作をお預かりした時の使命は、原作の世界観を忠実に描いていこうと思うので、余計な野望は描かない方が良いのではと思う。アニマックスでもオリジナルアニメ開発という意味でクリエイターを鼓舞してほしい。

(考査についてのお考えについて)

- コンプライアンスは当たり前のことなので、モラルのアップデートのほうが気になる。コンプライアンスは組織として見張ってくださればいい、現場ではちょっとした気づきのアップデートのほうが大事。
例えば、ドラマのラブストーリーで泣いている女の子をいきなり抱きしめることは、今は違うと思い、通行人から隠すというラブシーンを描き好評だった。
- タイトルから子供のいじめの発想にはいかなかった。
- 主題歌が少し安っぽかった。
- タイトルと中のストーリーは、すごく挑戦的でよかったと思った。タイトルをもっと挑戦的なものにしても良いのでは？
- 今の若い人たちを見ていると、表面的にはすごく仲が良いが陰で（悪口を）言っているということが多く。人の顔色を見ながら、人との関係を作っている。
- いじめを明るくポジティブに表現することはいいとは思いますが言い換えると（作品の印象は）古い感じ。

(考査についてのお考えについて)

- 70年代80年代のアニメが面白かった。アニマックスでもどんどん放送していただきたい。
- 時代背景が異なるので、必要なものはずっと注意テロップが流れているくらいでも良い。

ご意見を参考にした今後の対応

* 作品については、新しい題材に取り組んでいることを高く評価いただきました。

* 一方で、原作に無いアニメ独自の番組演出の必要性や主題歌等の改善点など、今後作品をよりよくしていくためのアイデアを多く教示いただきました。

こうした各員からのご意見を制作者に共有し、今後の制作の参考として参ります。

以上